

堂浦のテグスといやしの杜 阿波井神社

徳島県・鳴門市



長崎福三著「漁食の民」には、次のように紹介されている。

堂浦のテグスを使った釣り漁法は江戸時代を通じ瀬戸内海のあちこちに導入され、それぞれ地方的な釣り漁法を育てている。一本釣りにテグスを使用しはじめたのは慶長年間というからかなり古い。テグスは中国の広東省地方の楓蚕の腺液を酷酸の中で引き延ばして、固めたもので、薬品の包装に用いられていたものである。堂浦の漁師たちは、大阪からこのテグスを仕入れ、これを釣り用具として各地に売り歩きながら漁業を行なったという。そして江戸時代中期には、この堂浦の釣り漁法は瀬戸内海に広く普及した。瀬戸内海の本一本釣りは釣った魚をいけすに生かしておいて、活魚として売ったために値が高かったという。

また、司馬遼太郎著「街道をゆく」でも、堂浦の漁師がテグスの利用を広く流通させた話が紹介されている。

TOPICS

- ・阿波井神社例祭 10月16日 開催（10月9日、21日に御輿が海を渡る）
- ・特産品：鳴門ワカメ、鳴門ダイ

お問い合わせ先

鳴門市経済部農林水産課

TEL / 088-684-1152

【交通】

バス / JR鳴門駅から約20分

船 / 堂浦から渡船で約5分

